

# まきひと カルデアの牧人 ~校長だより~ No.33

## 3学期始業式

～高い塔を立てなければ新しい地平線は見えない～

2026.1.8 校長

あけましておめでとうございます。2025年度3学期がスタートしました。今年もよろしくお願いします。

年末は冬らしくない暖かな天気が続きましたが、1月2日には久しぶりの雪が降り、あっという間に真っ白な世界に変わりました。雪は周りの音を吸収しますので、シーンと静まり返った景色となり、白く無音の世界のなかで、新たな1年が始まる 것을実感しました。

「人は節目で変わる」とよく言われます。時間の進みはいつも同じなので、大晦日であろうと元日であろうと普段の1日と何の変りもないのですが、人は連続する時間にあえて区切りをつけて気持ちに変化を持たせようとするのです。これまでのことを消し去ったような白い無音の世界を目の前にし、私は1年の決意をしました。皆さんはどうな1年を始めようと思ったのでしょうか。

ここで、皆さんへ紹介します。1月5日朝、今年初めて学校に出勤しました。駐車場や昇降口には雪がたくさん残っていて、歩くのが大変でした。そうするうちに野球部の皆さんがそこ

の雪かきをしてくれました。登校する生徒や先生方、お客様が困らないように気遣ってのことです。ありがとうございました。

これまで、皆さんそれぞれが「できる」を増やし、「応援される人」になろう、と言ってきました。「できる」を増やすには「挑戦」が必要とも話してきました。

書家の相田みつをさんの有名な言葉に、

『つまづいたっていいじゃないか、にんげんだもの』

があります。「つまづいたっていいじゃないか」とは、何かを失敗しても開き直って諦めてもよい、という意味ではありません。人は、特に皆さんのような若者は、今より高い自分を目指して、困難な道であろうと前に向かって進もうとします。それが挑戦であるからつまづくのだと思います。勉強や部活動、受験、人間関係などでつまづきを感じた、または感じている人も多いと思います。つまづきのない高校生活、青春はないのです。この「つまづく」とは挫折

とは違います。途中でダメになることではなく、つまづいたら原因を分析し、もう一度起き上がりって挑戦すれば良いのです。

つまづきから起き上がったあなたはより強く、また周りからも支援をされる、「応援される人」になっているのです。

失敗しない方法を知っていますか？

『①なにもしない ②できることだけする ③人の言うとおりにする』

であると植松努さんは話されています。失敗はしないけれども、成長はないです。こんな生き方は望みません。

失敗といえば12月23日に種子島宇宙センターから打ち上げられたH3ロケットが第2エンジンの不調から打ち上げ失敗となりました。ロケット開発、宇宙技術はとても難しいものであると感じました。2003年に打ち上げ成功し、2010年に小惑星「イトカワ」からサンプル採取して地球に帰ってきた小惑星探査機「ハヤブサ」のJAXAプロジェクトマネージャーであった川口淳一郎さんは、この成功について次のように話されています。

『高い塔を立てなければ新しい地平線は見えない』

日本人は先駆者に学んでそれを洗練することにたけてきた、でもそれでは歴史に名は残らない。高い目標を掲げて前人未踏の境地に挑戦しようと発心し、挫けずゴールを目指し続けることでその先の地平線が見える。ぜひ、皆さんも高い塔を立てて、つまづきながらも前へ進んでいく新しい1年としてください。

さて、一昨日6日には大きな地震がありました。「まさか島根で」と驚きました。2024年1月1日に起きた能登半島地震を思い起こし、インフラがズタズタになり避難生活を余儀なくされた光景をわが事として想像しました。自然の前では人間は無力です。一瞬で状況が変わります。1日1日を大切に生活していきましょう。